

労働政策フォーラム

2013年7月13日(土)

「女性労働の家族依存モデルの限界」

山田昌弘

(中央大学／日本学術会議連携会員)

1. はじめに 若年女性をめぐるパラドックス

- ❖ 主観的意識では若年女性 = 最も生活満足度が高い層
20代女性の生活満足度 75.2%
(20代男性65.9% 50代女性59.8%)
- ❖ 客観的現実では最も不利益を被っている層 = 20代女性
仕事は低収入で不安定、非正規雇用者率高い
結婚したくても相手がいない
アンダークラス化の兆候 自殺率上昇(20代女性の
自殺率10年で約1.5倍)

1. はじめに 若年女性をめぐるパラドックス

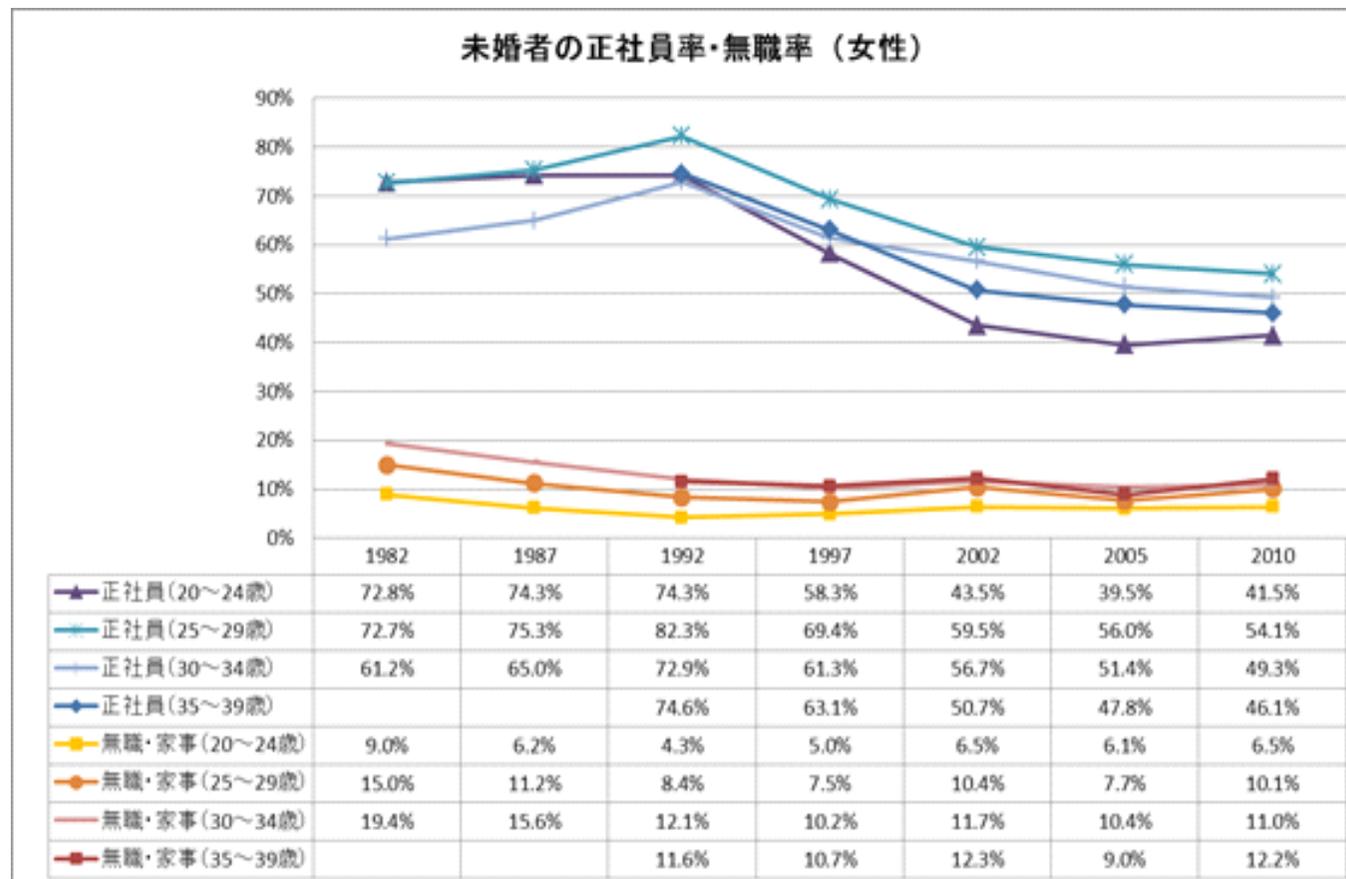
(図表) 生活に満足している人の割合(%)
→ 生活満足度の高い若年女性

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
女性	75.2	70.5	60.4	58.9	67.2	69.5
男性	65.9	59.2	55.5	51.1	64.7	70.7

(内閣府国民生活に関する世論調査 2012年10月)

1. はじめに 若年女性をめぐるパラドックス

(図表) 未婚20代の就労状況
→ 若年女性(男性も)、正社員率が低く、失業率も高い



1. はじめに
アンダークラス化の兆候

アンダークラスになる
若年女性の実態

—さまざまなルポルタージュ

1. はじめに アンダークラス化の兆候

まともな仕事からも、家族からも、社会保障 からも排除される若年女性の存在

- ・仁藤夢乃 2013『難民高校生－絶望社会を生き抜く私たちのリアル』
- ・鈴木大介 2012『出会い系のシングルマザーたち－欲望と貧困のはざままで』
- ・中塚久美子 2012『貧困の中で大人になる』
- ・荻上チキ 2012『彼女たちの売春(ワリキリ) 社会からの斥力、出会い系の引力』

1. はじめに 若年女性をめぐる願望と現実の乖離

結婚をめぐる乖離

- 願望 — 婚活への関心、結婚願望の強まり
- 現実 — 未婚率の上昇、交際相手あり率の低下

性別役割分業をめぐる乖離

- 願望 — 専業主婦志向 — 若年女性で高まる
- 現実 — 既婚20代女性のパートでの共働き率の高まり

1. はじめに 意識の上での保守化、実態は格差社会化

主観的願望 保守、伝統回帰

従来モデル(性別役割分業家族)に包摂されることを期待

客観的現実 格差拡大

どこにも包摂されないアンダークラス女性の出現

- ✓ 共働きしなければ生活できない、
- ✓ (包摂してくれる) 結婚相手みつからない
- ✓ パラサイトもできずに貧困化していく若年女性が出現

2. 女性労働の家族依存モデル — 戦後日本社会 女性の家族依存モデル

戦後日本社会（近代性別役割分業社会）

- ✓女性 — 家族によって包摂されていることが前提
 - 未婚女性 （父）親
 - 既婚女性 夫 正規雇用者か自営業者
（高齢女性 遺族年金か、家業の跡継ぎ息子）
- ✓社会保障制度
 - 社会保険 家族に包摂されていることが前提
 - 公的扶助 （包摂できる）家族がいない人対象

2. 女性労働の家族依存モデル — 戦後日本社会 女性 — 家族による包摂が前提

- ✓ ライフコースが予測可能 結婚して離婚しない
高度成長期 95%以上結婚、離婚確率10%程度
- ✓ 女性を包摂する家族(父、夫、息子)が扶養できる
収入を得られる
1990年頃まで、男性の大部分が正規雇用者、
保護された自営業者

2. 女性労働の家族依存モデル — 戦後日本社会 女性労働 — 家族依存モデル

腰掛けとパート主婦

- ✓ 日本社会 女性が労働によって包摂されることは想定されなかった
- ✓ 未婚女性 住居や収入がある「親」によって基礎的生活条件が用意される
(離別女性も実家に戻る率高い — 戻れない人が大変不利)
- ✓ 既婚女性 正規職員か自営業者の夫の収入によって生活が維持される

2. 女性労働の家族依存モデル — 戦後日本社会 女性労働 — 家族依存モデル

女性労働は付加的かつ選択的なもの — 家族依存前提

- ✓ 正規雇用、パート、無職（家事手伝いから専業主婦） 選択可能

2. 女性労働の家族依存モデル — 戦後日本社会 自立していた女性 「自立できるから自立している」

自立を選択している女性

- ✓ 正社員女性（親同居か自活か選択可能）・・・若年男性と同様の状況

自立しなければならない女性

- ✓ 女性差別が少なかった正規労働者（教員、公務員、団体職員など）
- ✓ 女性性職従事 女性であることを売りにした仕事（接客系、零細自営業系、福祉系）

3. 家族依存モデルの限界 経済社会の構造転換

ワーキングプアの発生

- ✓ ニューエコノミー（グローバル化、情報化、オートメーション化）
- ✓ 職の二極化、安定した雇用の減少、収入の不安定化を伴う
- ✓ 「労働による包摂」がゆらぐ → ワーキングプアの発生
- ✓ Z.バウマン 資本主義ではあってはならないはず

3. 家族依存モデルの限界 労働と家族による包摂のゆらぎ

「(仕事で)自立したくてもできない」人の増大

- ✓フルタイムの仕事がない、フルタイムで働いても自立できない職の増大
- ✓「労働」による包摂の揺らぎ

「自立しなければならぬ」人の数が増える

- ✓依存できる家族がない、いても依存できないケースの増大
- ✓「家族」による包摂のゆらぎ

3. 家族依存モデルの限界 経済の構造転換の日本的特徴

若年へのしわよせ

- ✓日本では、不安定な低収入の仕事を、若者（男女）が担う
- ✓労働慣行 新卒一括採用、終身雇用
労働調整－採用抑制
- ✓新卒で正規雇用になれない、何かの理由でドロップアウトした若者 定職に就きにくい

（移民を受け入れない）

3. 家族依存モデルの限界 欧米 脱家族依存モデルへの移行

欧米 女性労働の家族依存モデルからの 脱却が先行 後に経済の構造転換

- ✓ 欧米フェミニズム 1960年代
女性－労働による包摂を目指す
- ✓ 労働による包摂がまだ可能な時期に、女性の労働による自立が目指された
- ✓ 家族依存モデル → 労働依存モデルへの転換
- ✓ 家族依存モデルからの脱却後、経済の構造転換が起き、労働の包摂力低下、
- ✓ ニューエコノミーに対しては、ジェンダーの区別なく社会政策的に対応

3. 家族依存モデルの限界

日本の「時代的」特徴(圧縮された近代、一足後れのフェミニズム)

日本

労働による包摂ができなくなる時期に
労働による包摂を目指す

- ✓1990年代(雇用機会均等法1985)
- ✓経済の構造転換が起きている時期に、女性の労働による自立が目指されたと同時に、労働での自立が困難な状況広がる。これが、様々なパラドックスを生み出している。

3. 家族依存モデルの限界

日本の「時代的」特徴(圧縮された近代、一足後れのフェミニズム)

家族依存モデルを
残さざるを得なくなる

3. 家族依存モデルの限界

結婚 — 家族形成による「包摂」の限界と願望の維持

若年男性の経済力低下

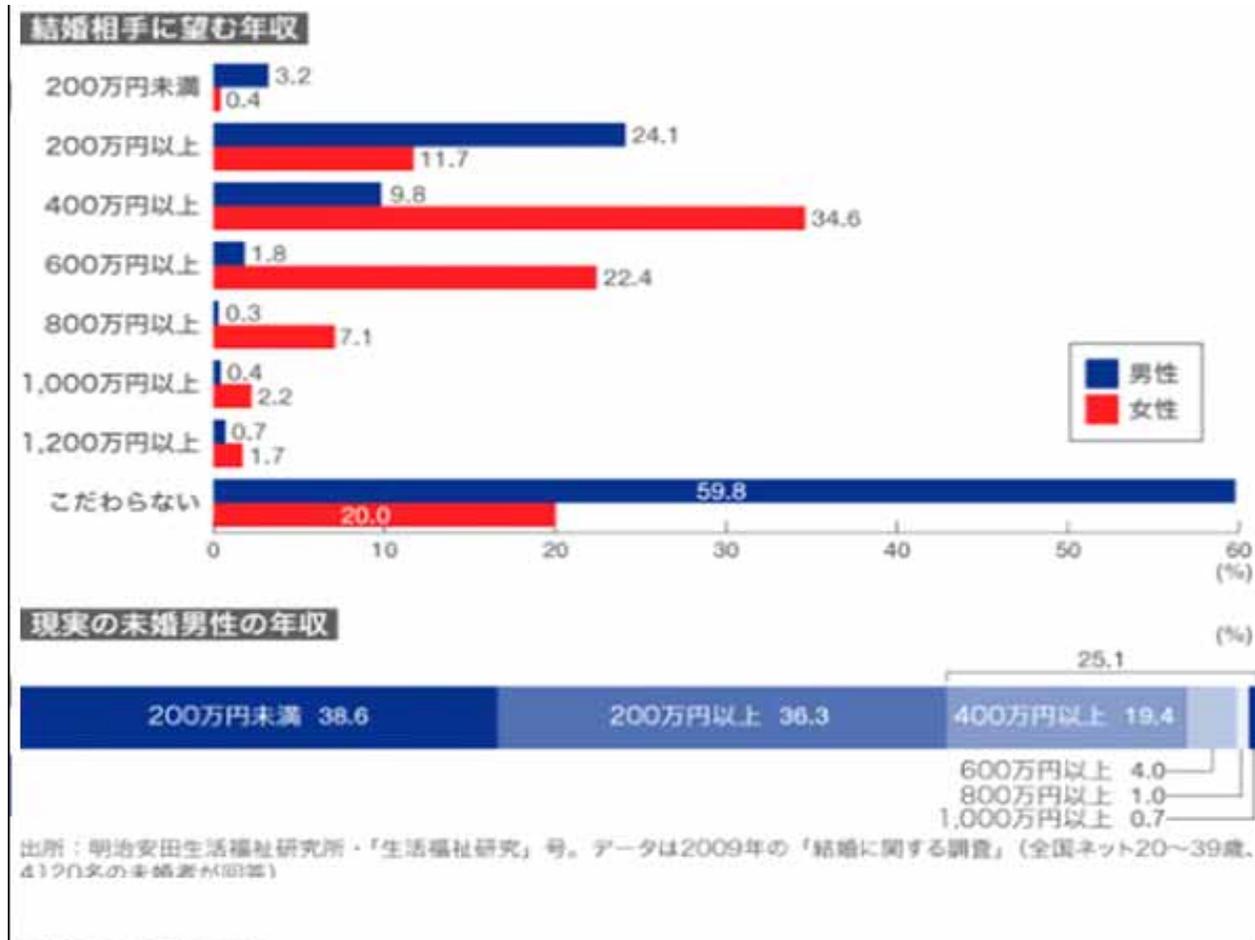
- ✓ 若年男性の労働状況の低下、二極化
- ✓ 子を養える収入を得られる男性と、
得られない男性への分化

- ✓ 結婚、家族形成によって社会的に包摂されることを望む女性多い
- ✓ 正社員の長時間労働、非正社員の低収入

3. 家族依存モデルの限界

結婚 — 家族形成による「包摂」の限界と願望の維持

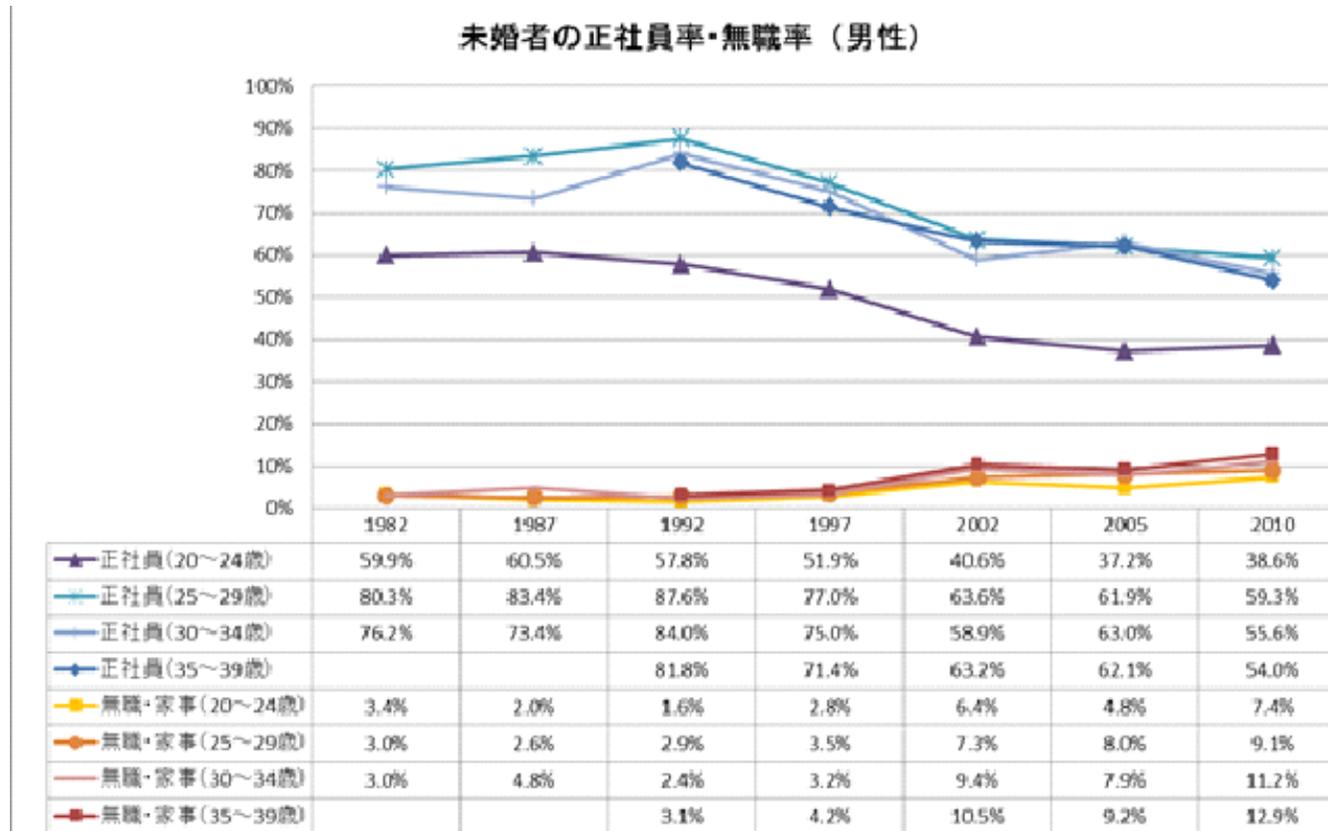
(図表) 未婚女性の結婚相手に望む年収と現実の未婚男性の年収の比較(2010年)



3. 家族依存モデルの限界

結婚 — 家族形成による「包摂」の限界と願望の維持

(図表) 未婚男性の正社員率の低下



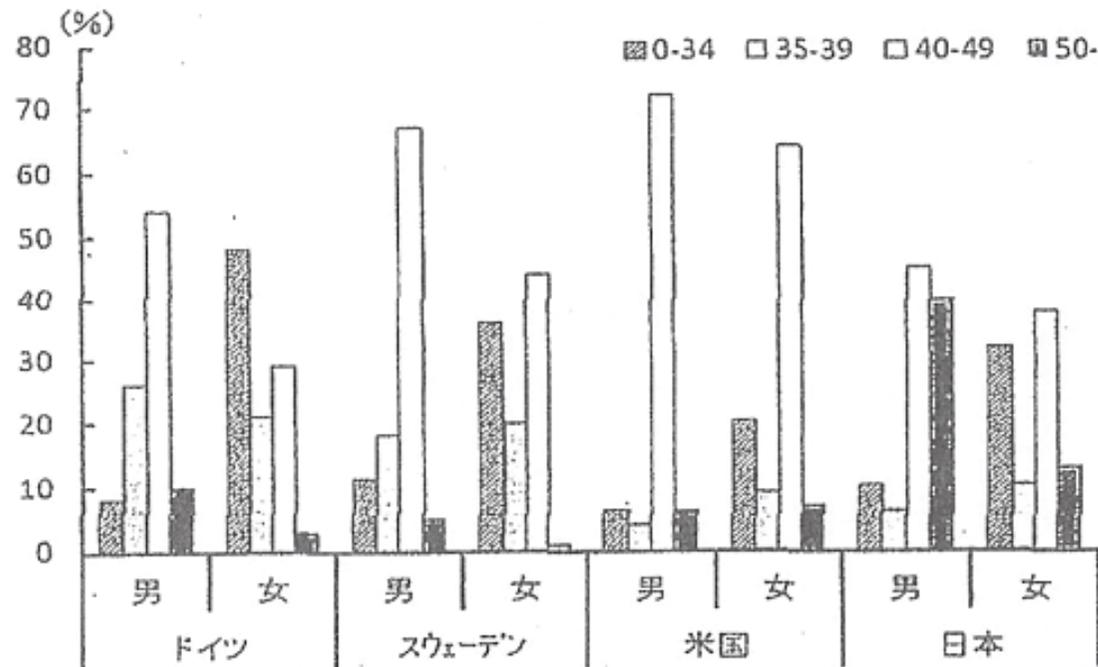
(国立社会保障・人口問題研究所 出生力調査より集計)

3. 家族依存モデルの限界

結婚 — 家族形成による「包摂」の限界と願望の維持

(図表) 日本の長時間労働

⑩ 週当たり労働時間別従業者割合(2007)



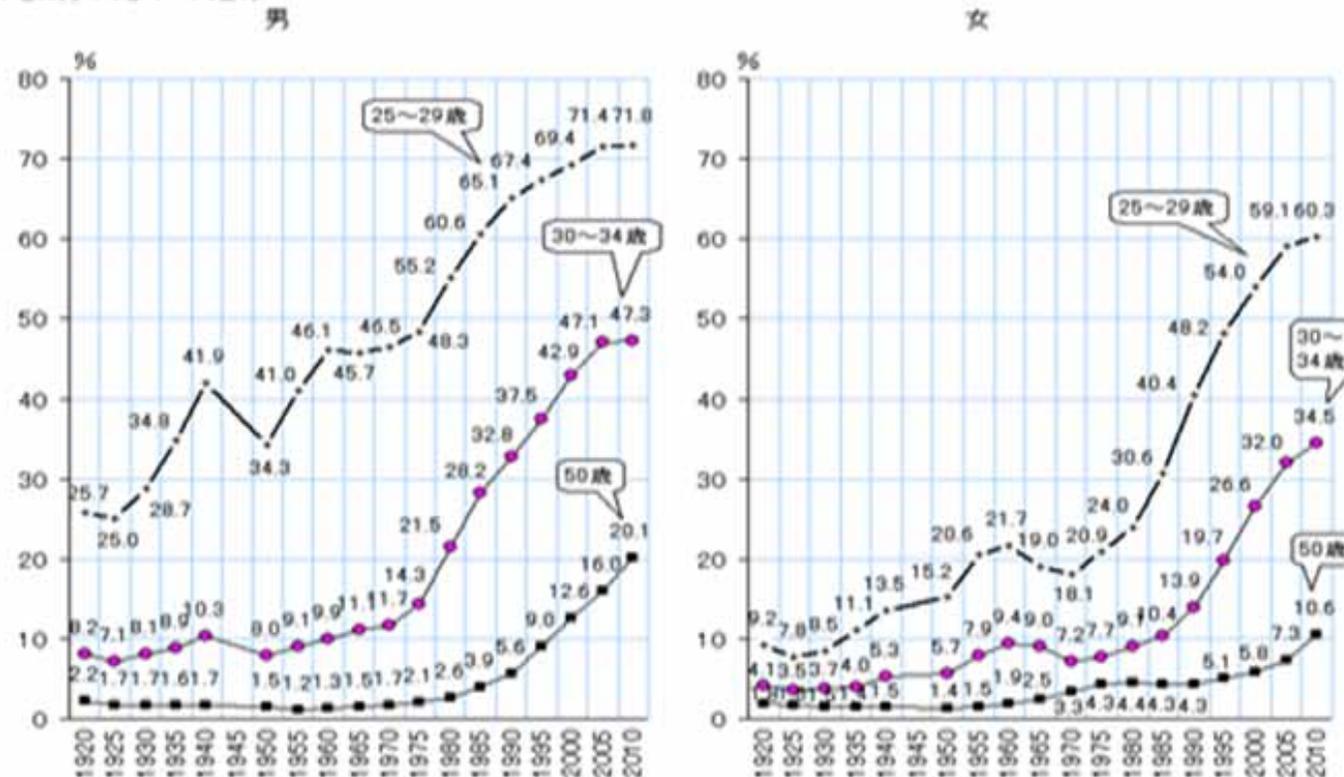
Source) OECD Family Database

3. 家族依存モデルの限界

結婚 — 家族形成による「包摂」の限界と願望の維持

(図表) 未婚化の進展

年齢別未婚率の推移



(注) 配偶関係未詳を除く人口に占める構成比。50歳時の未婚率は「生涯未婚率」と呼ばれる(45~49歳と50~54歳未婚率の平均値)。

(資料) 国勢調査 (2005年以前「日本の長期統計系列」掲載)

3. 家族依存モデルの限界 「親同居未婚者(パラサイトシングル)」という問題の先送り

ライフコースの予測不可能性

- ✓未婚化の進展（背景－未婚男性の経済力低下）
- ✓離婚の増大（背景－既婚男性の経済力低下）

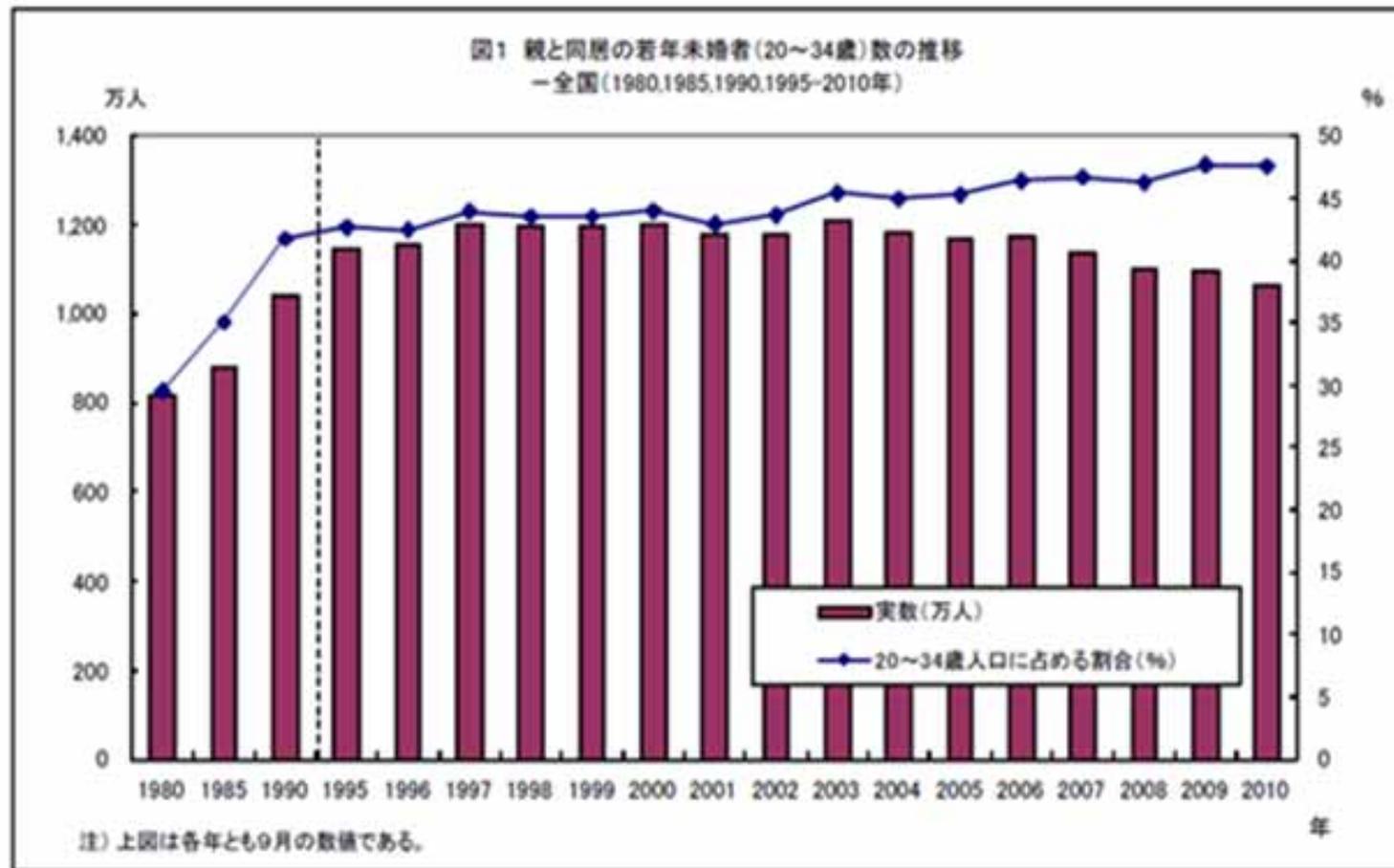
親依存（両親同居の長期化、再同居）

によって、問題が隠される

- ✓家族による包摂の一類型

3. 家族依存モデルの限界 「親同居未婚者(パラサイトシングル)」という問題の先送り

(図表) 親同居未婚者の増大



(総務省統計研修所 西文彦氏の分析)

3. 家族依存モデルの限界 「親同居未婚者（パラサイトシングル）」という問題の先送り

(図表) 30代の家族類型

	家族類型		ケース数
①	夫婦家族	男性世帯主	6,529
②		女性配偶者	7,703
③	ひとり親	男性	3
④	ひとり親	女性	327
⑤	親同居未婚	(両親＋未婚子ひとり) 男性	1,257
⑥		(両親＋未婚子ひとり) 女性	918
⑦		(片親＋子ひとり) 男性	235
⑧		(片親＋子ひとり) 女性	216
⑨	男性単身者		202
⑩	女性単身者		170

(2009年、全国消費実態調査より 出所:山田、苫米地／総務省統計研修所報告会資料)

3. 家族依存モデルの限界 「親同居未婚者(パラサイトシングル)」という問題の先送り

(図表) 家族類型別、30代の雇用状況

	家族類型	正規雇用	非正規	自営	無職
①	夫婦家族 男性世帯主	90.7	2.0	6.3	0.9
②	ひとり親 男性	66.7			33.3
③	両親同居 未婚男性	59.0	11.5	9.2	21.4
④	片親同居 未婚男性	58.3	9.7	8.4	23.5
⑤	男性単身者	79.7	8.9	5.9	5.5
⑥	夫婦家族 女性配偶者	15.8	26.3	3.7	53.6
⑦	ひとり親 女性	34.3	48.8	1.2	15.8
⑧	両親同居 未婚女性	50.2	23.7	2.7	22.2
⑨	片親同居 未婚女性	30.9	23.7	5.1	39.9
⑩	女性単身者	72.4	19.9	2.9	4.8

(正規雇用には役員含む。非正規にはパート派遣その他の計、自営には家族従業者、内職も含む。無職には求職中も含む。)

3. 家族依存モデルの限界 「親同居未婚者(パラサイトシングル)」という問題の先送り

(図表) 家族類型別 30代の家計状況

	家族類型	本人勤務先 年収(万円)	世帯年収 (万円)	本人月収 (円)	世帯月収 (円)
①	夫婦家族 男性世帯主	505	591	326,463	396,140
②	ひとり親 男性			216,974	275,138
③	両親同居 未婚男性	305	670		
④	片親同居 未婚男性	278	438		
⑤	男性単身者	429.5		267,674	
⑥	夫婦家族 女性配偶者	174	623	49,246	402,120
⑦	ひとり親 女性	197	241	130,580	169,269
⑧	両親同居 未婚女性	269	689		
⑨	片親同居 未婚女性	215	421		
⑩	女性単身者	346.5		245,497	

勤務先年収(万円)は勤務先がある人のみ、世帯月収は自営業は0として計算。

3. 家族依存モデルの限界 若年労働のジェンダー問題

男性

労働による包摂のみを問題化すればよい

- ✓ 家族による包摂を期待できない — 前提(しかし、実質的には親依存による問題がかなり隠される)
- ✓ 労働による格差の問題に還元できる

女性

労働、家族1(夫)、家族2(親)

- ✓ 三つの包摂先(選択肢)があるように見える — 許される
- ✓ その三つの選択肢

3. 家族依存モデルの限界 若年女性の将来の行き詰まり

選択肢は多いが、
どの選択肢をとっても困難が――

3. 家族依存モデルの限界 若年女性の将来の行き詰まり

① 仕事に希望を見いだそうとしても (労働による包摂を目指しても)

- ✓ 正規雇用者 職自体の減少、長時間労働、両立しにくい
- ✓ 非正規雇用者 それだけで自立できない(低収入、不安定)
(女性性を売りにした労働 接客等 — 低収入化という報道)

3. 家族依存モデルの限界 若年女性の将来の行き詰まり

② 結婚に希望を見いだそうとしても
(生殖家族による包摂を目指しても)

安定収入男性の減少

- 一 結婚相手の減少 結婚できない
- 夫の収入不安定 離婚せざるを得ない

3. 家族依存モデルの限界 若年女性の将来の行き詰まり

③ このまま親同居を続けても (親による包摂を続けても)

親が亡くなった後の見通しが無い

(無職、非正規雇用者)

今後、親の経済力がもつとも限らない

3. 家族依存モデルの限界 若年女性の将来の行き詰まり

(図表) 中年パラサイトシングルの増大



2012年には、305万人(統計研修所・西文彦研究官の分析)

3. 家族依存モデルの限界 若年女性の女女格差

- ✓「労働」にも、「家族1(夫)」「家族2(親)」にも恵まれている女性もいれば、そのすべてから排除される女性も出てきている。
- ✓格差にレバレッジがかかっているのが現代社会である。
(橋木『夫婦格差社会』『女女格差』)

しかし、現行の政策、社会保障システムは、
そのような事態を想定していない

3. 家族依存モデルの限界 アンダークラス化する若年女性

労働、家族1(夫)家族2(親)

すべてから排除される若年女性の出現

- ✓ルポルタージュ 貧困の連鎖
- ✓自分を支えることができない親、夫(同棲相手)、自立できない仕事
(児童虐待、親の経済状況の悪化、DV、接客業の賃金低下)

3. 家族依存モデルの限界 排除、排除予備軍のゆくえ

希望と対策のつけまわし

✓排除、排除予備軍の女性の希望

労働で自立できない → 結婚に希望をもつ

✓対策もつけ回す

結婚すればよい 親がいるからよい

一人暮らしなら働けばよい

*すべて(労働、生殖家族、定位家族)が悪化しているのに、
すべての対策が中途半端

4. 付録 三世代内母子家庭

- ✓日本社会 離別(死別)の母子
 - ー 実家(母の親)が包摂する割合が高い
(未就学児がいる場合、ほぼ4割が親と同居)
- ✓母子世帯よりも低収入
- ✓将来、親に何かあったときに一気に貧困化

4. 付録 三世代内母子家庭

✓2004年 全国消費実態調査 より

山田昌弘、金原あかね

✓未就学児がいる母子世帯の比較

(統計研修所・リサーチペーパー20『未就学児がいる家庭の経済状況について』2010年)

4. 付録 三世代内母子家庭

(図表) 三世代内母子家庭、単独母子家庭の比較

◆表7-4-1 母親の年齢、子ども数の比較(平均)

	母親の年齢	18歳未満子ども数(うち、未就学児数)
三世代世帯内母子	31.0歳	1.50人(1.14人)
単独母子世帯	33.4歳	1.98人(1.21人)

◆表7-4-2 母親の就労形態の比較

	回答数	フルタイム	パートタイム	無職	求職中
三世代世帯内母子	139	52(37.4%)	33(29.5%)	41(29.5%)	13(9.4%)
単独母子世帯	196	81(41.3%)	69(35.2%)	29(14.8%)	17(8.7%)

4. 付録 三世代内母子家庭

(図表) 三世代内母子家庭、単独母子家庭の比較

◆表7-4-3 世帯別、母親自身の年間収入

	平均年収
三世代世帯内母子	106万円
単独母子世帯	286万円

◆表7-4-4 世帯別、母親自身の年間収入階級別度数分布(%)

	100未満	100-199	200-299	300-399	400-499	500以上(万円)
三世代世帯内母子	78.2	14.3	6.1	0.7	0.7	0.0
単独母子世帯	16.5	31.9	21.8	4.3	8.6	17.0